

## 国内未承認ワクチンを接種される方へ

### **A型肝炎ワクチン (Havrix® 1440 Adult ; GlaxoSmithKline 社製)**

A型肝炎は開発途上国で最も注意すべき感染症の一つです。飲食物による経口感染で起こり、感染源はカキをはじめとする海産物が多いです。2-6週間の潜伏期間の後、発熱、全身倦怠感、食欲不振、黄疸などを呈し、通常1ヶ月程度の療養を要します。特別な治療はなく、安静臥床し対症療法を受けます。日本における2000年-2008年の患者の報告数は、139人-502人/年で、日本国内での感染者数は毎年100人を超えています。予防に関してはワクチンが非常に有効ですが、昨今の需要量の著しい増大により、全国各地で供給量が不足しています。そのため当院では海外で使用されているA型肝炎ワクチンを導入することにしました。Havrix® 1440 Adultは16歳以上に使用されているワクチンであり、1回の接種で1年以上の予防効果があり、6-12ヶ月後の追加接種で約20年の予防効果が見込まれます。国産ワクチンは3回の接種が必要ですが、本ワクチンは2回の接種で完了します。接種方法は1.0mlを筋肉注射します。起こり得る副反応は、頭痛、倦怠感、接種部位の痛み・発赤・腫れ、食欲低下、吐き気などです。

### **狂犬病ワクチン (Rabipur® ; Novartis 社製)**

狂犬病は、犬、コウモリ、キツネ、スカンク、マングースなど哺乳類の動物から感染する病気です。全世界で年間約55,000人の狂犬病患者が発生しますが、ほぼ100%死亡します。潜伏期間は通常1-3ヶ月ですが、1年以上たってから発症する場合があります。流行国への渡航前に予防接種を受けることが推奨されますが、この数年来の需要量の増大により、全国各地で供給量が不足しています。そのため当院では海外で使用されている狂犬病ワクチンを導入することにしました。Rabipur® (精製ニワトリ胚細胞ワクチン)は海外で全年齢において接種されているワクチンであり、3回の規定通りの接種により2年間の予防効果が見込まれます。国産ワクチンは半年から1年かけて3回接種しますが、本ワクチンは3週間ないしは4週間で3回の接種が完了します(初日、1週間後、3週間後または4週間後の接種)。接種方法は1.0mlを筋肉注射します。起こり得る副反応は、接種部位の痛み・しこり・腫れ、頭痛、倦怠感、発熱、寒気、吐き気、腹痛、筋肉痛・関節痛、発疹、リンパ節腫脹などです。

### **輸入ワクチン副作用被害救済補償制度**

日本国内で承認されているワクチンは予防接種法、施行令によって健康被害に対する救済制度が確立していますが、日本国内未承認ワクチンについてはその救済制度は対象外となります。そのため、国内未承認ワクチンの副作用に関する救済補償制度は、当院がワクチンの輸入を依頼している代行業者による独自の補償制度に従うことになります。